

## 2025年度 事業報告

### A. 組織運営

#### ① 総会・幹事会・常任幹事会・各委員会・付置部会の実施と傘下組織への情報提供

総会、幹事会各1回実施、常任幹事会10回、各委員会・部会を64回実施し、各事業の充実を諮った。

#### ② 円滑かつ多様な意見に基づく組織運営体制の検討と実施

若手会員が中心に活動するRINGプロジェクトへの支援を拡大、女性会員を中心とした部会(桐柏楷)を設置した。

#### ③ 「維持会費」募集等の財政改善事業の実施

校友会会報「都市」発送時に維持会費納入の依頼をしていたが、今年度より発送は中止となったため、卒業後51年～70年の卒業生9,935名に対してホームカミングデーの案内を発送した際に、維持会費納入の依頼を行うとともに定期総会、地方支部総会等で納入のお願いをし、約399万円の納入があった。(前年度約423万円)

#### ④ 母校の現役及び退職教員、現役職員、在学生との連携〈新規〉

校友会連携活動奨励給付制度を創設し審査の結果、新聞会に優良賞(表彰状および10万円)を授与した。教員の総会参加を推進し、給付制度を創設した。また支部(高知支部)における教員・在学生との協同による子供向けものづくりワークショップを支援し、全国展開を図ることを決定した。

#### ⑤ 「東京都市大学校友会館・自由が丘クラブ」の運営参画と協業

校友会常任幹事が役員として参画し、運営を協業した。

### B. 広報活動

#### ① 本会及び各同窓会活動の広報

各イベントの周知については、都市大校友オンラインメールによる配信、ホームページ、フェイスブックの更新を更に増やすとともに「校友会note」においては随時記事を作成し更新頻度をあげた。

#### ② 名簿情報及び「都市大校友オンライン」の整備充実・活用

校友オンラインの代替となり会員同士がSNSを通じて交流をはかれるシステムを検討し、2026年度から仮運用システム「アルムネット」の導入を決定。

#### ③ 公式オンラインマガジンの発行〈新規〉

紙媒体の校友会会報「都市」の代替として、メディアプラットフォーム「note」を利用し地方支部活動、職場支部活動、各種イベント等校友会活動の情報発信を積極的に行った。

#### ④ ホームページやSNS等の整備充実・活用

校友会ホームページをリニューアル。併せて「校友会note」への記事掲載を積極的に行い、随時更新を行い情報発信を行った。

#### ⑤ 情報のデジタル化とアーカイブスの整備充実・活用

卒業アルバムを収集しデジタル化するとともに、有用な写真等を抽出し、有効活用する基盤を構築している。(継続中)

### C. 在学生・教員・母校支援活動

#### 1. 母校との連携

##### ① 母校の「創立100周年記念事業」(仮称)への協力と独自事業の企画実施

大学の記念事業が確定しなかったため具体的な進展はないが、東横学園の卒業生が経営に携わる石川県金沢市で最も長い歴史をもつ酒蔵の福光屋とコラボし、創立100周年に向けて大学×校友会×福光屋でオリジナルラベルの日本酒(加賀雫・純米大吟醸)を製作し、ホームカミングデー、賀詞交歓会で提供した。また、大学と協同でカレンダーやポストカードの製作も進めている。また過去の卒業アルバム等、アーカイブスの充実をはかった。

##### ② 連携事業の検討・立案・実施

学位授与式の際に大学と共同で卒業生が記念写真を撮影できる都市大オリジナルフォトスポットを設置した。

##### ③ 母校の「東京都市大学リカレントプログラム」への協力

卒業生に対して開講の周知を行うとともに、受講して修了した卒業生に対して受講料の補助(1講座2万円)を3名に行った。

#### 2. 在学生の支援

##### ① 「進路相談会」等の就職支援活動の実施

12月3日(水)及び10日(水)に参加企業91社、参加学生延べ310名により「卒業生による進路相談会」を開催した。

##### ② 地方支部における学生交流機会創出の取り組み派遣先企業の紹介・提示

地方支部に『校友会支部における学生交流機会創出の取り組み』の受け入れ協力を依頼し、学生募集を実施

③ 「学科研究会」及び「学生団体連合会」との連携・支援

ホームカミングデー(世田谷)において、在学生代表挨拶を学団連執行委員長に依頼した。

④ 博士後期課程進学予定の博士前期課程学生への奨学金支給

博士後期課程進学予定の博士前期課程学生(成績上位者)4名に対して各々月5万円、総額240万円を給付した。

⑤ 本会地方支部における在学生交流活動に対する支援<新規>

新聞会の学生を地方支部に派遣し取材および記事の執筆を依頼した。  
地方支部における学生交流機会創出の取り組み派遣先企業を募集して在学生に紹介・提示した。

⑥ 本会と連携した在学生への給付金支給<新規>

校友会連携活動奨励給付制度を創設し、東京都市大学新聞会に対して団体「優良賞」を授与し、10万円を給付した。

⑦ 「緊急奨学金」の貸与

1月末現在申込者なし。なお、過去に貸与した2名(2014年度及び2021年度)が未返還のため、弁護士を通して法的な督促措置を行っている。

2. 教員の支援

① 博士後期課程学生指導教員への教育研究費支援<新規>

博士後期課程に人数に応じて、大学財務課経由で、各研究室へ研究費を配分し、総額688万円を給付した。

② 本会と連携した教員への給付金支給<新規>

募集したが実績なし。

D. 同窓会活動支援

1. 学科同窓会の活動支援・連携

学科同窓会の事業に対する支援基準表を改定し、不明確だった各学科同窓会への支援基準を明確にした。

2. クラブ・同好会の同窓会の活動支援・連携

① 活動支援・連携のあり方の検討

課外活動団体同窓会に対する支援制度の創設を常任幹事会で決定した。2026年度から実施予定である。

3. 地方支部活動の支援・連携

① 地方支部の活性化支援

地方支部支援基準表の改定、ホームカミングデーへの招待、旅費基準の改定を行い支援を拡充した。

② 地方支部間の連携支援

昨年に続き、ホームページに各支部総会の日程を掲載し、支部間の垣根を越えて参加することを可能とした。  
ブロック会議を支援し、地域内の連携強化に協力した。

③ 就職活動支援依頼(地元企業と保護者との関係強化)

9月に開催された「保証人対象大学との連絡会」において各地方支部へ出席をお願いし、地元企業の紹介など就職活動支援の一環とした。

④ 受験生への母校紹介依頼

各地方支部へ受験生と接する機会があれば母校の紹介をお願いしている。

⑤ 「海外支部」の発足支援

ベトナム支部が発足した。

#### 4. 職場支部活動の支援・連携

##### ① 職場支部との連携促進

本部から職場支部総会へ出席し交流を図っている。

##### ② 職場支部の発足支援

様々な機会に職場支部の立ち上げの働き掛けを行っている。

##### ③ 海外インターンシップ派遣先企業の紹介/提示

職場支部を通じて、また進路相談会の場等で企業に対して海外インターンシップ受け入れのお願いを行なっている。

#### 5. 学内支部活動の支援・連携

学内支部体制の下に活動していくこととなり、支援することとしている。

#### 6. 女性会員参画の推進<新規>

女性会員のみで構成される「桐柏楷(とうはくかい)」を新設し、総会の講演講師を探す際に、女性講師の提案を行い、総務委員会で承認される等、女性の視点で事業の改革が行われている。

### E. 会 員 交 流

#### 1. 校友会イベント

##### ① 講演会・懇親会・賀詞交歓会等の開催

5月17日の定期総会当日において映画監督の本木克英氏による講演を実施した。  
(2026年)1月27日(木)に賀詞交歓会を行った。

##### ② 親睦行事・相互交流会・セミナー等の企画・開催(地方支部等との合同開催を含む)

事業企画委員会の企画として、若手卒業生が中心となりサバイバルゲーム<4月27日(日)>、関東鉄道試乗見学会<6月28日(土)>、JAL工場見学<7月27日(日)>、ディナークルーズ<11月8日(土)>、福島第一原発ツアー<2月9日(月)>を実施し、会員相互の交流を活発に行った。校友会オリジナルキットカットを製作。

##### ③ 卒業生へのキャリア支援プログラム実施

卒業生のためのキャリア支援委員会(大学の財務課が支援)と三井住友信託銀行株式会社(自由が丘支店)の共催により人生100年時代における将来への備え～相続について考える～のセミナーを世田谷キャンパスで実施した。

##### ③ 「校友会功労者表彰」の実施

定期総会の議事後に功労者表彰を行った(3名)。合わせて叙勲受章者(2名)の慶祝を行った。

#### 2. 母校行事への参画と連携

##### ① 世田谷・横浜各キャンパス「ホームカミングデー」の共催

9月14日(日)に横浜キャンパス(130名出席)、11月1日(土)に世田谷キャンパス(290名出席)、それぞれ学園祭に合わせてホームカミングデーを開催した。

##### ② 学位授与式における「校友会賞」の授与、学位記フォルダーの贈呈、卒業パーティの共催

<校友会賞> 学術優秀で将来社会において活躍が期待される者を対象に各学科または専攻1名、計17名に校友会賞を授与した。

<学位記ホルダー贈呈> 2025年度卒業生・修了生全員に学位記ホルダーを進呈した。

<学位授与式後の卒業パーティ> 大学と共催で実施した。

##### ③ 「エコ1チャレンジカップ」の協賛

エコ1チャレンジカップの協賛をし、校友会賞10万円を提供した。また開催当日は校友会役員数名が参加した。